

牛久：学校周辺に見る自然

第29号 牛久第二小学校

2019年2月23日発行

＜ 冬の校庭で、生き物たちの冬ごしのくふうを観察しよう ③種子散布 ＞

1月23日、牛久二小4年生との校庭の生き物観察。今回は、種子散布。自然の種まきのお話です。



一年で全体が枯れて死んでしまう草もあれば、冬でも芽が生きていて春に伸びてくる植物もありますが、どちらも次の世代を残すために種子を作ります。どれもが親と同じ場所に落ちると光や養分をめぐって競争になってしまいますから、少しでもはなれた場所にまかれるようにそれぞれくふうが見られます。

まずは、ひっつき虫。イヌやネコなど動物の毛皮にひっついて運ばれるタネです。



ビオトープ周辺では、科センダングサやヒカゲイノコズチが見られました。虫めがねで見ると、毛皮や服などにひっつきやすいように、タネにフックが付いています。ただし、つきっぱなしではタネはまかれることなく終わってしまいますから、別の場所ではずれるようになる必要がありますね。

フックで動物の毛皮などにひっついてタネが運ばれる、科センダングサ（上）とヒカゲイノコズチ（下2枚）。



次に、鳥が食べて運ばれ、糞といっしょに落とされて芽生えるタネたち。ビオトープ周辺ではマンリョウやアオキ、フェンスぞいにはタラヨウやトウネズミモチ、校舎とグラウンドの間にはクチナシやシャリンバイ、ニシキギが見られました。鳥に

目だつように、鮮やかな赤い色の実が多いです。トウネズミモチやシャリンバイの実は黒くて目立たないように見えますが、人には見えず鳥には見える紫外線を反射しているのだそうです。うまくできていますね。クチナシは、鳥につつかれてボロボロになっている実も多く見られました。

鳥が食べてタネが運ばれるマンリョウ（左）とヘクソカズラ（右）。



鳥が食べてタネが運ばれるタラヨウ（左上）とアオキ（右上）、クチナシ（左下）、トウネズミモチ（右下）。



最後に、風に乗って運ばれるタネたち。タンポポなどは綿毛わたげが発達していて、これでフワフワと風に乗って飛んでいきます。またアキニレやクロマツ、アオギリなどは翼つばさがあって、クルクル回るなどして滞空時間たいくうじかんをかせぎ、より遠くへと飛ばされていきます。その他、川の流れに乗って運ばれるものや、自分で種子しゅしをはじき飛ばすしくみをもったものもあります。いろいろ見つけてみましょう。

【理科支援員：宮内】



綿毛わたげで風でタネが運ばれるセイヨウタンポポ（上）と、翼つばさで風に運ばれるアキニレ（下左）、アオギリ（下右）。